

英語の多義語 “hand”の認知意味論的分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-01-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 皆島, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/10819

英語の多義語“hand”の認知意味論的分析

皆 島 博*

(2019年9月26日 受付)

内容要約 本論は、認知意味論の理論的枠組みにおいて、英語の多義語“hand”の多義構造を分析する。英語の“hand”は日常的に多用される基本的な身体部位語彙の一つであるだけでなく、文字通り身体性の高い名詞であり多様な意味（語義）を提示する。本論では、英語の“hand”がプロトタイプの意味（基本義）を起点として、その意味拡張の過程でどのような認知的動機付けを経て、多義の意味体系を獲得していったのかということを明らかにする。

キーワード：多義語・多義性・意味拡張・認知意味論・身体部位語彙

1. はじめに

本論では、英語の名詞“hand”を取り上げ、その多義構造と意味拡張の動機付けについて、認知意味論の理論的枠組みにおいて考察する。英語の“hand”は基本的な身体部位語彙の一つであり、次のような少なくとも3個の意味で用いられる点で多義的といえる：

- (1) a. the back of the hand (手)
- b. the minute hand of the clock (時計の分針)
- c. We are short of hands now. (人手)

認知意味論では、上のような“hand”が提示する様々な意味は無秩序に派生してきたものではなく、プロトタイプの意味（基本義）を出発点として、何らかの認知的動機付け（メタファー・メトニミー・シネクドキ）によって意味拡張を展開し、相互に関連性のある意味と意味とのネットワーク、すなわち、放射状カテゴリーを構成するようになったと考える。本論の目的は、“hand”に関して、次の3点について、認知意味論の立場から記述を行い、明らかにすることである。

*福井大学教育・人文社会系部門総合グローバル領域

- (i) “hand”の複数の意味（語義）の区別
- (ii) “hand”のプロトタイプの意味（基本義）の仮定
- (iii) “hand”の意味拡張の動機付け（メタファー・メトニミー・シネクドキ）の認定

2. カテゴリーとしての多義語

ある語が相互に関連した複数の意味を持っていることを多義性といい、また、そういう語を多義語という。例えば、英語の“eye”という語には、次のような意味がある（『ライトハウス英和辞典』の記述を一部修正・省略して引用）：

- ① 目，眼
- ② 視力，視覚，視線
- ③ 観察力，見分ける力，鑑賞力，眼力
- ④ 目つき，目もと
- ⑤ 目の形をしたもの；台風の目

認知意味論では、多義語を一種のカテゴリー、すなわち、複数の語義の集合と考える（舩山・深田 2003：141）。カテゴリーとは、現実世界に存在するさまざまなモノをグループ分け（分類）して、ひとまとめにして捉える心の働き（認知）をいう。多義語は、相互に関連した複数の意味をひとまとめにして、その構成員としての語の個々の意味から構成される、という点でカテゴリーを構成しているといえる¹⁾。

認知意味論のカテゴリー観では、カテゴリーのすべての構成員が構成員であるための必要十分条件を満たしている必要はない。むしろ、構成員の間に中心的なものと周辺のものとの区別が存在するだけであると考ええる。また、他のカテゴリーとの間の境界線も曖昧なものであると考える。これらの点が、カテゴリーのすべての構成員は、プラス（+）かマイナス（-）かの二項対立に基づいて決定される必要十分条件を満たしている必要があり、また、他のカテゴリーとの間の境界線も明確なものであると考えていたアリストテレスの時代の古典的カテゴリー観と異なっている。認知意味論のカテゴリー観では、カテゴリーには次のような特徴があることが提案されている（Wittgenstein 1978；Labov 1973；Rosch 1975；Lakoff 1987）：

- (i) カテゴリーの構成員は家族的類似を示す
- (ii) カテゴリーの構成員には典型的事例が存在する
- (iii) カテゴリーの構成員はプロトタイプ効果を示す

まず、「家族的類似」とは、カテゴリーの全構成員は共通の性質を持っているわけではないが、各構成員が部分的にどこかで共通の性質を持つことによって、カテゴリー全体の統一性が保たれていることをいう。次に、「典型的事例」とは、カテゴリーの構成員の中には、最もわかりやすい例、つまり、代表的な構成員であるプロトタイプが存在することをいう。最後に、「プロトタイプ効果」とは、カテゴリーの構成員は均質なものではなく、典型的なものとそうでないものとに分かれ、構成員間でカテゴリーへの帰属度に程度差が存在していることをいう。

上で引用したカテゴリーとしての多義語“eye”に当てはめてみると、①～⑤の各語義がカテゴリーの構成員ということになる。そして、カテゴリーを構成するということは、カテゴリーの3つの特徴を示すということになる。したがって、カテゴリーの構成員（各語義）の間には、典型的な意味（プロトタイプ）とそうでない意味（非・典型的な意味）との違いが存在し（プロトタイプ効果）、全く同一の意味はないが、部分的に類似した意味が混在することによって、カテゴリー全体としての統一を保っている（家族的類似）と考えられる。

ところで、一つの語が多義性を獲得することを認知意味論では意味拡張といい、それはカテゴリー拡張の結果生じたものとする（Lakoff 1987；Sweetser 1990；Taylor 1995）。認知意味論では、多義語というカテゴリーは、古典的カテゴリー観の要件を満たすものではないので、そこには中心的構成員（プロトタイプの意味）とそれ以外の周辺の構成員とが混在する。なお、プロトタイプの意味（基本義）とは、複数の意味の中で最も基本的な意味のことで、意味拡張の起点となる意味であるが、主として、次のような特徴と傾向性をもつ（Dirven and Verspoor 1998；舩山 2002；瀬戸 2007a；高橋 2010；瀬戸他 2017）：

- (i) 文脈なしで最も想起されやすく、身体性・具体性が高い、文字通りの意味。
- (ii) 言語習得の早い段階で獲得される意味。
- (iii) 他の転義を理解する前提となる、あるいは、他の転義との関連性が自然に説明できる意味。
- (iv) 使用頻度が高いことが多い意味。
- (v) 慣用表現や比喩で使用されやすい、すなわち、用法上の制約を受けにくい意味。

カテゴリー拡張では、この基本義を起点として「メタファー」「メトニミー」「シネクドキ」と呼ばれる3種類の比喩（認知的動機付け）が要因となり、複数の方向へ語義の意味拡張が展開する。これらについて、佐藤（1992）、瀬戸（1997）、舩山・深田（2003）、瀬戸（2007a, b）、瀬戸他（2017）にしたがい、次のように定義する。

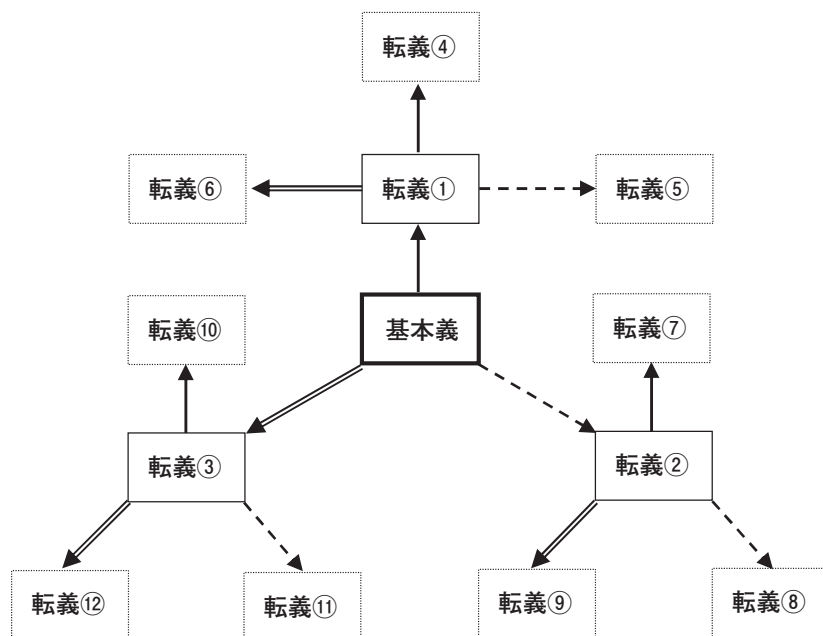
- ①**メタファー**：二つの事物の間に存在する何らかの類似性に基づいて、一方の事物を表す形式を用いて他方の事物を表す。
- ②**メトニミー**：二つの事物の間に存在する何らかの隣接性・近接性・関連性・連想に基づいて、

一方の事物を表す形式を用いて他方の事物を表す。

- ③シネクドキ：一般的な意味（類概念）を持つ形式を用いて特殊な意味（種概念）を表す，逆に，特殊な意味（種概念）を持つ形式を用いて一般的な意味（類概念）を表す。

カテゴリー拡張の最も一般的な形態を放射状カテゴリーと呼ぶ。これは，Lakoff（1987）で提示されたモデルで，中心的構成員（プロトタイプ）を2次の構成員（非プロトタイプ）が取り囲み，その2次の構成員を中心に，それを3次の周辺の構成員が取り囲む，というように，文字通り，結果として，中心から外へ向かって放射状に拡張していくカテゴリーのことである（辻 2002: 238；辻 2013: 340）。多義語の放射状カテゴリーのモデルを図示すると下のようになる（辻 2002: 238；瀬戸 2007a: 5；瀬戸 2007b: 41；瀬戸他 2017；辻 2013: 340）を参考に作成）。なお，実線矢印はメタファーに，破線矢印はメトニミーに，二重線矢印はシネクドキに動機付けられた意味拡張を表す：

図1 多義語の放射状カテゴリーのモデル



上の図で，中心に位置する「基本義」が中心的構成員（プロトタイプ）で，そこから，それぞれ，メタファー，メトニミー，シネクドキによって，「転義①」，「転義②」，「転義③」の第2次構成員へとカテゴリー拡張をしている。さらに，「転義①」から，それぞれ，メタファー，メトニミー，シネクドキによって，「転義④」，「転義⑤」，「転義⑥」の第3次構成員へとカテゴリー拡張をしている。「転義②」

と「転義③」からのカテゴリー拡張についても同様である。ただし、この放射状カテゴリーの図は多義語の意味拡張の理論上のプロセスを図示したモデルにすぎない。したがって、すべての多義語がこのような意味拡張のプロセスをたどるということではないことに注意する必要がある。

3. 英語“hand”の多義構造

3.1 “hand”の複数の意味

ここでは、“hand”の複数の意味（語義）の区別を行う。その際、指針となるのは英英辞典における意味領域の区別と定義である。大型辞典は一般に意味領域の区別が精密で、定義の項目数も多くなる傾向がある。したがって、本論では、議論を煩雑にしないために *Macmillan English Dictionary*（以後、MED）、*Oxford Learner's Dictionary*（以後、OLD）、*Cambridge English Dictionary*（以後、CED）の3種類の中型辞典を参照する。各辞典に挙げてある定義の項目数については、MEDが9項目、OLDが12項目、CEDが9項目である²⁾。各辞典の定義（日本語に訳して引用）を、共通すると思われる意味領域ごとに並べ直すと、下の表のような（Ⅰ）～（Ⅸ）の9個の意味領域に再整理できる。なお、各定義の冒頭に付してある数字は各辞典における定義の通し番号を表す。

意味領域	MED	OLD	CED
（Ⅰ） 人体	1 [可算] 腕の先端にある体の一部で、物を拾ったり持ったりするのに使う	1 [可算] 腕の先端にある体の一部で、親指とそれ以外の指を含む	1 [可算] 腕の先端にある体の一部で、物を持ったり、動かしたり、触ったり、触れられたりするのに使われる
（Ⅱ） 労働者	2 [可算] 肉体労働をする人：a. 農場で働く人, b. 船上で働く人	6 [可算] 農場や工場などで肉体労働をする人 7 [可算] 船の乗組員	5 [可算] 肉体労働をする人あるいは何かの技術や経験がある人：船乗り
（Ⅲ） 援助	3 [単数] 助け	3 [単数]（略式）何かを行うときの助け	4 [単数] 多くの努力を要することを行うことへの助け
（Ⅳ） 拍手	4 [単数] 手を叩くことで演技・演奏（パフォーマンス）を楽しんだことを示すこと	（該当する定義なし）	7 [単数] 演者（パフォーマー）に対する拍手
（Ⅴ） ゲーム	5 [可算] カードゲームで与えられた特定のカードの組	9 [可算] カードゲームで一人の競技者に与えられたカードの組 10 [可算] カードゲームの対戦（対局）	3 [可算] カードゲーム（の一勝負）、または競技者がカードゲームで持っているカードの組
（Ⅵ） 関与	（該当する定義なし）	4 [単数] ある特定の状況で誰かまたは何かが演じる役割や役目。ある状況に対する誰かの影響	6 [単数] ある出来事に対する関わりあるいは影響

意味領域	MED	OLD	CED
(Ⅶ) 機械	7 [可算] 回転して文字盤を指す時計の長い部分	5 [可算] (通常, 複合語で) 掛け時計や腕時計の文字盤を指す部分	2 [可算] 掛け時計や腕時計の文字盤を指す時計の細長い部分
(Ⅷ) 長さ	8 [可算] 馬の体高を測定するための単位	12 [可算] 馬の体高を測定するための単位。4 インチあるいは10.16センチに相当	9 [可算] 肩の高さまでの馬の体高を測定するための単位。1 ハンドは4 インチ (= 10.16センチ)
(Ⅸ) 筆記	9 [可算] (主に書き言葉で) 誰かの筆跡	11 [単数] (古い用法) 筆跡の特定のスタイル	8 [単数] (古い用法) 人の筆跡

上で英英辞典の定義を再整理した結果に基づいて、本論では“hand”に対して最終的に次のような10個の語義を区別する³⁾。なお、各語義は例文とともに列挙してあるが、辞典の例文は編集者の作例によるものもあるので、不自然な例文はなるべく避けるという意味で、辞典から引用した例文ではなく、ウェブサイトより収集したものを使用した。

語義① 〈手〉：概念 {腕の先端, 手首より先にある身体の一部} {親指とそれ以外の指から成る} {物を拾ったり, 持ったり, 動かしたり, 触ったりするのに使われる}

(2) Hands are made up of more bones and moving parts than most other areas of the body. (手は体の他のほとんどの領域よりも多くの骨と可動部分で構成されています)

<https://www.fairview.org/patient-education/82381>

語義② 〈働き手〉：概念 {特に, 工場, 農場, 船上などで, 手作業にたずさわる人}

(3) Where do all the harvest workers come from? This is a question we are often asked on our wine tours. Even though harvesting machines are being used more and more, still perhaps 40% of all grapes are still harvested by hand (the exact number is hard to know). And in Champagne it's 100%. It is compulsory. So many hands are needed. (収穫労働者はみんなどこから来るのでしょうか？これはワインツアーでよく聞かれる質問です。収穫機の使用はますます増えていますが、おそらくすべてのブドウの40%がいまだに手で収穫されています(正確な数を知るのは困難ですが)。そしてシャンパーニュでは100%です。必須です。なので非常に多くの働き手が必要です)

<https://www.bkwine.com/news/foreign-harvest-workers-dominate-champagne/>

語義③ 〈手助け〉：概念 {誰かが何かを行っているときに差し伸べられた援助}

(4) I was just thinking about you the other day when I saw the Jackie Chan movie in the theaters. Anyways, I was just wondering if you could give me a hand with translating a letter from Chinese to English. (先日ジャッキー・チェンの映画を劇場で見ていた時に君のことを考えていました。とにかく、中国語の手紙を英語へ翻訳するのを君に手伝ってもらえたらな、と思っていました)

<https://www.ieltsbuddy.com/ielts-letter-translation-of-document.html>

語義④ 〈拍手〉：概念 {演者の演技や演奏などに賞賛の意を示すために、手のひらと手のひらを叩き合わせること}

(5) A performance of Chinese yo-yos, one of Taiwan's traditional folk arts, was included in the ceremony. The audience enjoyed the show and gave big hands. (その式典には台湾の伝統芸能の一つである中華ヨーヨーの実演が含まれていました。観客はショーを楽しみ、大きな拍手を送っていました)

<https://www.aeonstores.com.hk/new/detail?id=248&lang=en>

語義⑤ 〈手札〉：概念 {カードゲームで、競技者に配られた、あるいは競技者が獲得した一組のカード}

(6) A hand consists of five cards, but only a straight, flush, full house and straight flush use all five cards. However, with hands where not all of the cards are required to make the hand, such as three of a kind or two pair, the remaining cards can be decisive. (持ち札は5枚のカードで構成されますが、ストレート、フラッシュ、フルハウス、ストレートフラッシュのみが5枚のカードすべてを使用します。ただし、スリーカードやツーペアのように、すべてのカードで持ち札を成すことを求められていない持ち札については、残りのカードが決定的になります)

<https://www.pokerstarsschool.com/article/Poker-Hand-Rankings>

語義⑥ 〈対戦〉：概念 {カードゲームにおけるひと勝負、1回の対局}

(7) Rick is forced by a Russian Mafia boss to play one hand of poker, with the prize being his girlfriend's life. (リックはロシアマフィアのボスにポーカーを一勝負させられる羽目になります。彼のガールフレンドの命を代償として)

https://www.imdb.com/title/tt0971202/plotsummary?ref_=tt_ov_pl

語義⑦〈関与〉：概念 {ある状況や出来事に対する，誰かまたは何かの関わり，影響，あるいは役割}

(8) As evidence piles up pointing to the Saudi crown prince's responsibility in the brutal killing of the dissident journalist Jamal Khashoggi, President Trump has only hardened his refusal to concede any possibility that the prince had a hand in the crime. (反体制派ジャーナリストのジャマル・カショジの残忍な殺害におけるサウジ皇太子の責任を仄めかす証拠が集積するにつれ，トランプ大統領は，皇太子がその殺害に関わった可能性は認めないとの見解を強固にしたにすぎません)

<https://www.nytimes.com/2018/11/18/us/politics/trump-khashoggi-saudis.html>

語義⑧〈時計の針〉：概念 {掛け時計や腕時計の文字盤を指示する細長い部品}

(9) A clock is a device used to tell time. Clocks measure time in hours and minutes, and have an hour hand and a minute hand. (時計は時間を伝えるために使用される装置です。時計は時間と分で時間を測定し，時針と分針を備えています)

https://www.wyzant.com/resources/lessons/math/elementary_math/telling_time

語義⑨〈ハンド〉：概念 {馬の体高を示すための長さの単位}

(10) A horse's height is measured in 'hands' which is a measuring unit of 4 inches. The horse is measured from the ground to the highest point of the withers. There are two popular ways to measure a horse. One is by use of a measuring stick. The other is by using a measurement tape. (馬の体高は1測定単位4インチの「ハンド」で測られます。馬は地面から甲（肩甲骨の間の高くなっている部分）の最も高いところまで測定されます。馬を測定する一般的な方法は2つあります。1つは，尺杖の使用です。もう1つは，巻き尺を使用する方法です)

<https://www.saddleupcolorado.net/blog/measuring-a-horses-height/>

語義⑩〈手書き〉：概念 {手で筆記用具を使い文字を書くこと} {誰かが手で書いた文字，筆跡}

(11) Good handwriting displays patience, care and self-respect; a bad hand is an embarrassment. There's an obvious arrogance in making readers pore over every unruly pen stroke. (上手な手書きの字には根気，配慮，自尊心が表れます。下手な字には困惑します。字を読む人にペンの一筆ごとの乱雑な線を凝視させるような傲慢さが明らかにあります)

<https://www.questia.com/magazine/1P4-1914619548/writing-wrongs-poor-penmanship-impoverishes-us-all>

3.2 “hand”の意味拡張とその認知的動機付け

上で“hand”に10個の複数の意味を区別した。ここでは“hand”の意味拡張とその要因となる認知的動機付けについて考察するが、最初に意味拡張の起点となるプロトタイプの意味（基本義）を仮定する。多義語の複数の意味のうち、プロトタイプの意味が備えた特徴と傾向性を第2節で示したが、それらを考慮すれば、“hand”の複数の意味の中でも文字通り「身体性・具体性」の高い語義①〈手〉を基本義として仮定するのが妥当であろう。

次に、基本義〈手〉からその他の転義への意味拡張であるが、その認知的動機付けに関しては、手の機能との類似性に基づくもの（メタファー的拡張）、あるいは、手の機能との隣接性（近接性・関連性・連想）に基づくもの（メトニミー的拡張）のどちらかに分けられる：

I. メタファー的拡張

基本義〈手〉⇒転義〈時計の針〉：

手には、物を指し示すという機能がある。時計の針にも、文字盤の数字を指し示すという手と類似した機能がある。したがって、この意味拡張は機能の類似性に基づくメタファーによるものである。その一方で、文字盤を指し示す時計の針と物を指し示している手（指先）とは見た感じが似ているとも捉えられる。そうすると、これは形態の類似性に基づく意味拡張と捉えることもできる。場合によっては、機能および形態の類似性に基づくメタファーであるとも解釈できる。しかし、いずれにせよ、メタファーによる意味拡張であることに変わりはない。

II. メトニミー的拡張

(i) 「手」⇒「作業をする人」

基本義〈手〉⇒転義〈働き手〉：

“hand”「(作業をする)手」で、「作業をする人」を指している。つまり、「部分」(手)で「全体」(作業をする人)を指しているの、メトニミー（「部分」⇔「全体」の関係も隣接性の一種である）による意味拡張である。

(ii) 「手」⇒「手で行う行為」

基本義〈手〉⇒転義〈手助け〉；〈拍手〉；〈手書き〉；〈関与〉：

転義〈手助け〉〈拍手〉〈手書き〉〈関与〉は、一見、それぞれ異なる語義にも見えるが、「手(hand)がその機能として行うさまざまなこと(行為)」を指している点では共通しているとも言

える。つまり、各語義の差異は文脈（前後関係）の差異による揺れであるとも捉えられる。言い換えれば、各語義はしかるべき文脈を与えることによって明確化されるということである。すなわち、転義〈手助け〉は「手で行う行為→手を使って誰かを助けること」、転義〈拍手〉は「手で行う行為→手のひらを打ち合わせること」、転義〈手書き〉は「手で行う行為→手で筆記用具を動かして文字を書くこと」、転義〈関与〉は「手で行う行為→手を下すこと；(手を使って) 直接事に当たること」を指している。文脈による語義の揺れを捨象すれば、各語義は一義的には「手で行う行為」という点では共通している。したがって、“hand”「手」で、それと密接な関連性にある「手で行う行為」を指しているのが、メトニミーによる意味拡張である。

(iii) 「手」⇒「手の中に持っている物」

基本義〈手〉⇒転義〈手札〉：

“hand”「手」で、手の中に持った「(カードゲームの) カード」を指している。空間的隣接性に基づいた指示のずれであるので、メトニミーによる意味拡張である。

さらに、この転義を起点として、転義〈手札〉から転義〈対戦〉への二次的な意味拡張が生じている。“hand”「カード」で、「カード」が使われるカードゲームの対局(の場)を指しているのが、空間的隣接性に基づいた指示のずれである。したがって、これもメトニミーによる意味拡張である。

(iv) 「手」⇒「物の長さを測定する基準としての手」

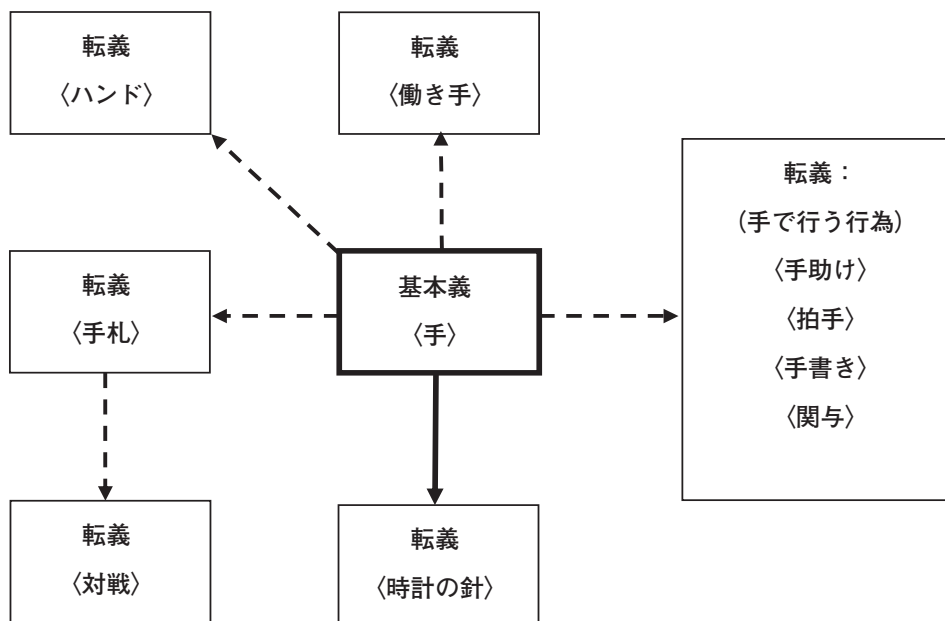
基本義〈手〉⇒転義〈ハンド〉：

“hand”「手」で、「手」という具象物の属性の一つである「手幅(長さ)」を指している。つまり、4インチ(約10センチ)という幅をもつ「手」がそのまま単位の名称(ハンド)として使用されている。なお、この意味は手幅を物差しとして馬の体高を測定したことに由来する⁴⁾。

3.3 “hand”の意味のネットワーク

上で英語の多義語“hand”に対し10個の語義を区別し、基本義を仮定した。そして、そこから各転義への意味拡張を展開する際に、どのような認知的動機付けを経て新たな語義を獲得するのか、ということも認定した。その結果、“hand”は下のような放射状カテゴリー(意味のネットワーク)を構成すると仮定できる。なお、下の図で、実線矢印はメタファーに、破線矢印はメトニミーに動機付けられた意味拡張を表す。

図2 “hand”の放射状カテゴリー



4. おわりに

本論では、英語の身体部位語彙“hand”を対象として、その意味拡張と多義構造について、認知意味論の観点から分析を行った。その結果、明らかになった点は次の通りである：

- (i) “hand”は多義語であり、放射状カテゴリーを構成する。
- (ii) “hand”の意味拡張の起点となる語義として、〈手〉を仮定するのが妥当である。
- (iii) “hand”の意味拡張の動機付けとしては、メタファー・メトニミー・シネクドキの3種類の比喩のうち、メトニミーが主たる役割を担っている。

結局、メトニミーによるものであれ、メタファーによるものであれ、人の手が有するさまざまな機能（働き）の一つに焦点が当たることによって、それが認知的動機付けとなって、“hand”の各語義の意味拡張を誘発しているということであろう。

後注

- 1) 認知意味論では、人間を、意味を読み取り、意味を発信する主体とみなし、「意味」については、人間の身体性（感覚・知覚・認知など）の総合的な営みを通じて概念化されたものとする。そして、概念化することはカテゴリー化することと同じであるという立場を取る。
- 2) MEDの見出し第6項目は、“play one's hand = use one's advantages”という特定のイディオムの定義になっているので除外する。また、OLDの見出し第2項目“handed”は形容詞を派生させる接尾辞的要素の定義であり、第8項目の“hand-”は複合語で接頭辞的に用いられる要素の定義であるので除外した。
- 3) 本論では、意味の記述に2つのレベルを設ける。一つは、「語義」で〈…〉で囲んで表す。もう一つは、「概念」で{|…|}で囲んで表す。「語義」と「概念」は、それぞれ語の意味の一側面を構成する。「語義」は、語の意味をなるべく簡潔に、ワンフレーズで収まるようにまとめた記述である。「概念」は、語の意味をなるべく、具体的に、詳細に、百科事典の意味をも交えて、まとめた多面的記述である。
- 4) *Oxford Dictionary of English*（第3版：p. 794）による。

参考文献

- Dirven, René and Marjolijn Verspoor (1998) *Cognitive Exploration of Language and Linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.
- Labov, William (1973) The Boundaries of Words and Their Meanings. In: Charles-James N. Bailey and Roger W. Shuy (eds.) *New Ways of Analyzing Variation in English*, 340-373. Washington: Georgetown University Press.
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press.
- 初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』(シリーズ・日本語のしくみを探る⑤) 東京：研究社.
- 初山洋介・深田智 (2003) 「意味の拡張」松本曜 (編) 『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻) 73-134. 東京：大修館書店.
- Rosch, Eleanor (1975) Cognitive Representations of Semantic Categories. *Journal of Experimental Psychology: General* 104: 192-233.
- 佐藤信夫 (1992) 『レトリック感覚』講談社学術文庫.
- 瀬戸賢一 (1997) 「第Ⅱ部 意味のレトリック」巻下吉夫・瀬戸賢一『文化発想とレトリック』(日英語比較選書①) 94-177. 東京：研究社.
- 瀬戸賢一 (編) (2007a) 『英語多義ネットワーク辞典』東京：小学館.
- 瀬戸賢一 (2007b) 「メタファーと多義語の記述」楠見孝 (編) 『メタファー研究の最前線』31-61. 東京：ひつじ書房.
- 瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望 (2017) 『[認知言語学演習②] 解いて学ぶ認知意味論』東京：大修館書店.
- Sweetser, Eve (1990) *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 高橋英光 (2010) 『言葉のしくみ—認知言語学のはなし』札幌：北海道大学出版会.
- Taylor, John R. (1995) *Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory*. Oxford: Clarendon Press.
- 辻幸夫 (2002) 『認知言語学 キーワード辞典』東京：研究社.
- 辻幸夫 (2013) 『新編 認知言語学キーワード辞典』東京：研究社.
- Wittgenstein, Ludwig (1978) *Philosophical Investigations* (trans. G.E.M. Anscombe). Oxford: Basil Blackwell.

参照辞典類

Cambridge English Dictionary (ウェブ版 <https://dictionary.cambridge.org/>)

Macmillan English Dictionary (ウェブ版, <https://www.macmillandictionary.com/>)

Oxford Dictionary of English (第3版, Oxford University Press)

Oxford Learner's Dictionary (ウェブ版, <https://www.oxfordlearnersdictionaries.com/>)

『ライトハウス英和辞典』(初版, 研究社)

例文検索ウェブサイト

<https://www.google.com/>